

山口県立山口博物館所蔵の植物標本（明治時代）

杉江 喜寿¹⁾

Botanical specimens in the collection of the
Yamaguchi Prefectural Museum (Meiji era)

Yoshihisa SUGIE

1 はじめに

当館は、1912年（明治45年）に開館し、2022年（令和4年）に開館110周年を迎えた県立の総合博物館で、7分野で計36万点以上の資料を収蔵している。そのうちの21万点以上は植物のさく葉標本（以下、植物標本）である。実に全体の収蔵資料数の約60%を占めている。これらの植物標本は、開館以前に作成されたものも含めて当館の開館以来長年にわたって地道に収集してきたものであり、山口県内はもちろんのこと、全国の研究者あるいは一般の有志の方々による努力と協力による賜物であり、今となっては絶滅や各種の指定により採集不可能のものも含めて、県民や国民の貴重な財産ともいえるものである。

これらの植物標本の大部分は、他の分野の収蔵資料と同じように日頃は収蔵庫に保管しており、企画展等で紹介する一部を除いて日の目を見ることはほとんどない。

そうした貴重な植物標本を含む収蔵資料にスポットを当てるといふことの必要性は感じていたが、なかなか実現の機会はなかった。しかし2021年に、新型コロナ対策も兼ねて当館公式サイト上に「バーチャル収蔵庫」という新たな収蔵資料公開の場を開設することになった（2022年4月より本格運用開始）。これは7分野すべての収蔵資料が対象であり、植物分野では県内の希少種の標本を高画質画像で紹介することにした（2022年12月末現在の掲載種数 57種）。その際に、それらの希少種以外にも歴史ある当館ならではの資料として、明治時代の標本作成の黎明期に当館に収められた貴重な植物標本を紹介することにし、希少種の標本画像に加えて、明治時代の標本の画像を掲載することにした。

館自体の歴史が長いこともあり、当館の植物標本の歴史も古く、当館でデータ化した標本一覧に記録として残っている最も古いものは、1880年代（明治20年代前半）にまでさかのぼることができた。本稿では、この「バーチャル収蔵庫」の開設を機会に調査した当館所蔵の県内外の標本や当館所蔵ではないが県内で採集した最古級の植物標本を、すでに当館サイトに掲載済みの5種を含めて改めて紹介している。2022年12月末現在で「バーチャル収蔵庫」に未掲載のものは、今年度から新たに「バーチャル収蔵庫」に掲載していく予定である。

ただし、植物標本全体のうち、データ化しているものはまだ約半数程度であり、県内の植物

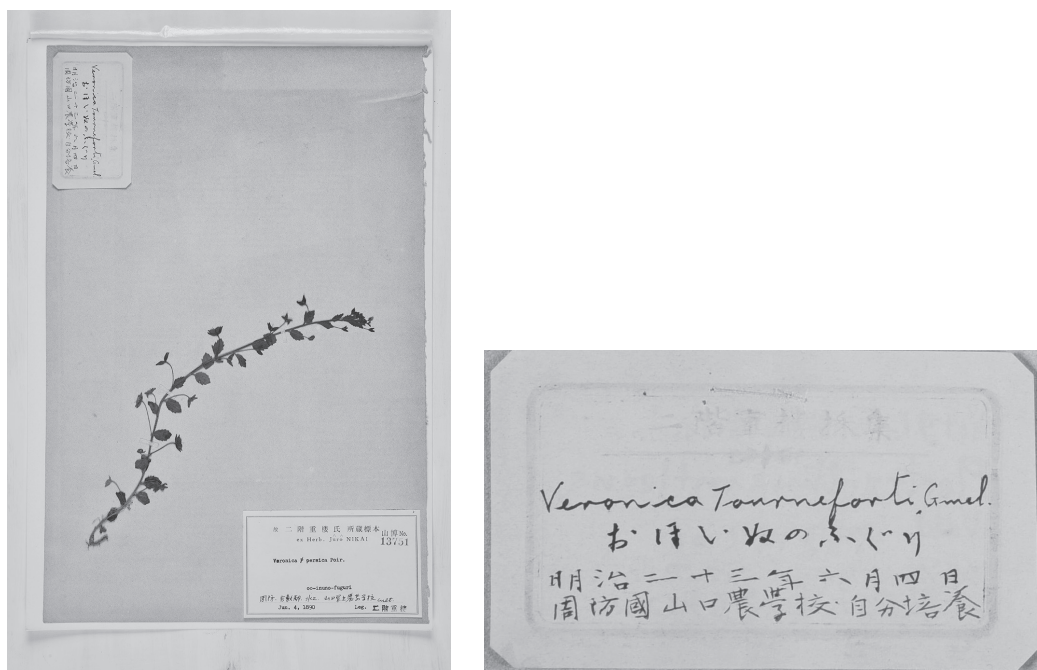
1) 山口県立山口博物館（植物）

研究会や休止になった県内の大学の植物研究室等からの寄贈分については、まだデータとして検索できないものが多数あり、その中にも明治時代など初期のものが含まれる可能性がある。それらについては、現在少しずつではあるが植物分野のサポーターの皆さんの協力によりデータ化を進めている。したがって、以下に記す資料は、すべて2022年12月末現在の調査済みのもののみである。

2 当館所蔵の最古級の植物標本について

(1) 「山口県内の採集」で、最古級の標本（当館所蔵のもの）

山口県内採集の植物標本のうち、当館で所蔵している最古級の植物標本として現時点で確認できているものは、二階重楼による「オオイヌノフグリ 1890年（明治23年）」（画像1・2）である。



画像1・2 オオイヌノフグリ(1890年(明治23年)6月)

山口県植物誌によると、二階重楼（1859～1932）は、現在の長門市三隅の出身で、1885年（明治18年）から1922年（明治35年）まで、現在の山口市氷上にあった山口農学校に教諭として勤務し、1888年9月13日に萩市菊ヶ浜で初めて標本を採集したが、このときの標本は東京大学に送られ、その後も多くが東京大学に寄贈され、没後は、標本一切が現在の国立科学博物館に寄贈された、とある（その他に、当館などにも一部寄贈されている）。

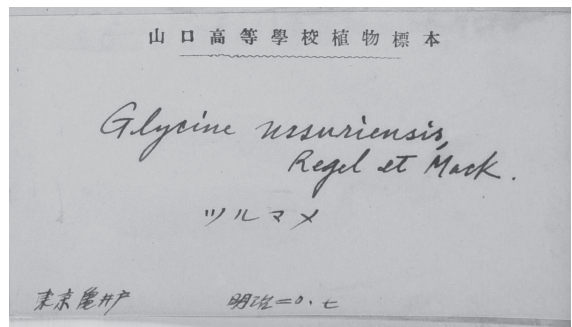
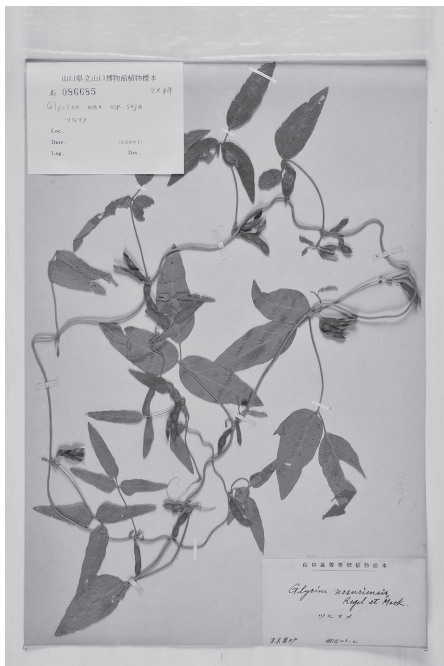
(2) 「山口県外採集」で最古級の標本（当館所蔵）

山口県外の採集で、現在当館で所蔵している最古級の植物標本は、「ツルマメ 1887年

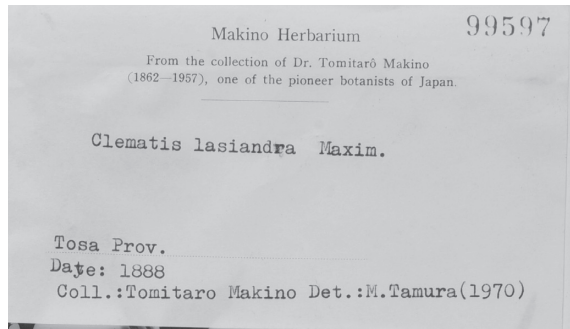
（明治20年）」（画像3・4）である。県内産の標本より2年前のものであり、全国的に見ても初期のものとして貴重な標本である。ただし、この標本には採集者の記載がない。

採集者の記載があるもので最古級のものは、牧野富太郎による「タカネハンショウヅル 1888年（明治21年）」（画像5・6）と「ミズキカシグサ 1888年（明治21年）」（画像7・8）ということになる。

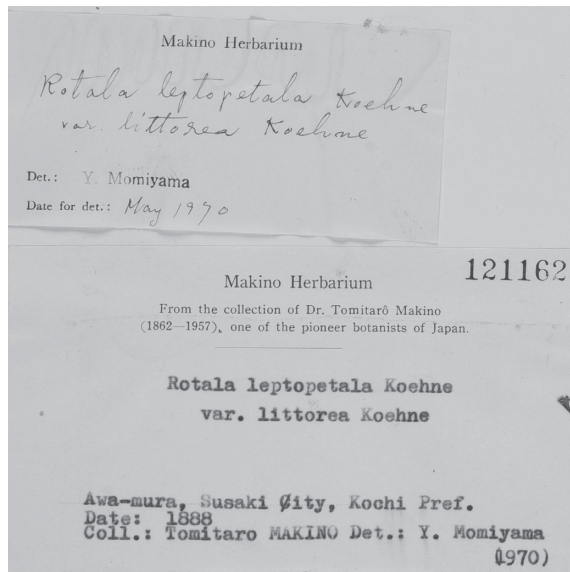
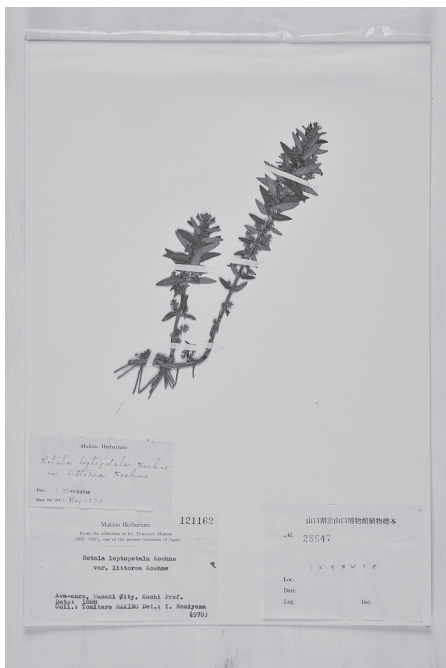
ただし、このうち「タカネハンショウヅル」についても採集当時の手書きのラベルは残っていない。（これらの標本は、高知県立牧野植物園からの寄贈標本と思われる。）



画像3.4 ツルマメ（1887年（明治20年）7月）

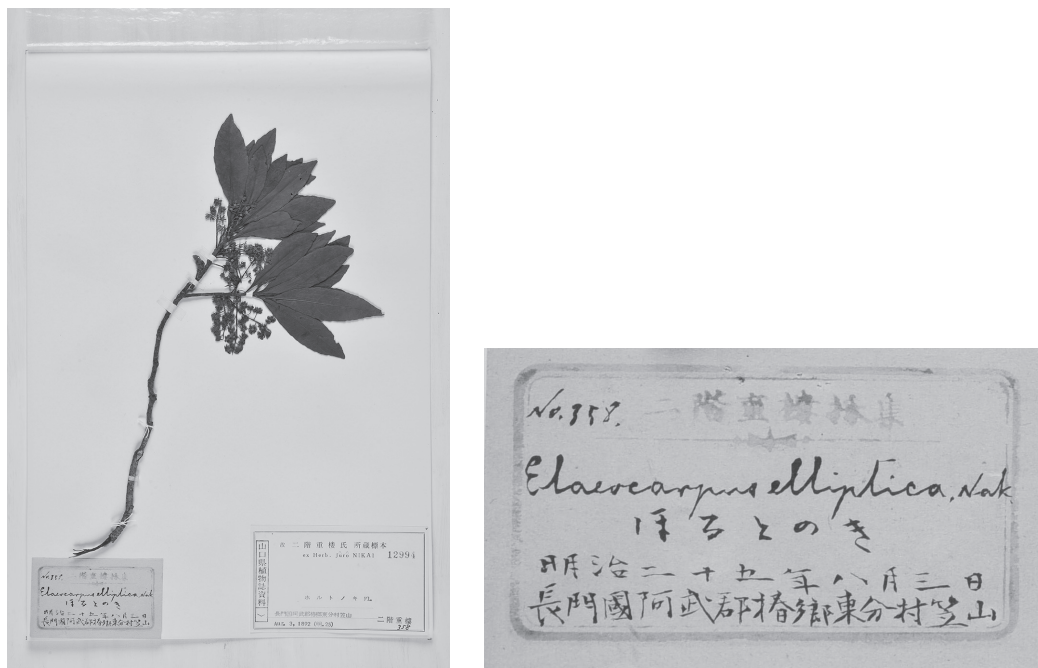


画像5.6 タカネハンショウヅル(1888年(明治21年) 高知県 牧野富太郎)



画像7.8 ミズキカシグサ(1888年(明治21年) 高知県 牧野富太郎)

(3) 初期のころの標本の1つ例として、バーチャル収蔵庫に掲載した標本



画像9.10 ホルトノキ(1892年(明治25年) 山口県 二階重楼)

※画像1～10は、バーチャル収蔵庫に掲載済

3 山口県内産出で、最古級の標本（当館所蔵ではないもの）について

研究用の植物葉標本の作製は、日本の江戸時代のころから諸外国で行われるようになり、江戸時代に来日した外国人によって山口県の植物についても一部が調査され、本国などに持ち帰られていたようである。山口県植物誌によると、それらのうち一部については日本に戻されたものもあるという。

外国との行き来が制限された江戸時代であるが、オランダとの貿易港として唯一開かれていた長崎の出島と江戸との間を行き来する瀬戸内海航路の途中に山口県の良港があったことで、往来の途中にオランダの医師でドイツ出身のPhilipp Franz Balthasar von Siebold（シーボルト 1796-1866）が山口県での植物の記録を残していることは大変興味深い。1826年に立ち寄った記録がある山口県の周防大島町には、シーボルトの上陸記念碑が建てられている。シーボルトはこの時期に国内各所で植物標本の作製（日本人に依頼しての収集も含めて）もしており、一部は本国に持ち帰っている。日本人によって本格的な植物標本が作製され、研究が進められるおよそ半世紀も前のことである。彼の前後にも往来の途中に、山口県内の植物採集（記録）をしていた外国人が何人かいたようであるが、詳細はよくわかっていない。

国内で、日本人による植物標本の作製や同定が本格的に行われるようになったのは、明治時代になってからであり、山口県では、前述のとおり、二階重楼が1888年（明治21年）9月13日に萩市で採集したものが最初の標本であるとされている。

この最初の標本の現在の状況については今のところ確認できていないが、同じ年の9月28日に二階重楼によって採集された「ハマスゲ」の標本が、国立科学博物館に現存していることは確認できている。（採集地：旧周防吉敷郡上宇野令村（現在の山口市中心部））

掲載番号	標本番号	科名	学名	和名	採集地	採集年月日	採集者
②	86685	マメ科	<i>Glycine max ssp. soja</i>	ツルマメ	東京都江東区亀戸	Jul.?.1887	?
③	24555	キンボウゲ科	<i>Clematis lasiantha</i>	タカネハンショウヅル	高知県	???.1888	牧野富太郎
④	28647	ミソハギ科	<i>Rotala leptotata v. littorea</i>	ミズキカシグサ	高知県須崎市粟村	???.1888	牧野富太郎
①	13751	ゴマノハグサ科	<i>Veronica persica</i>	オオイヌノフグリ	山口県吉敷郡水上山口県立農業学校	Jun.4.1890	二階重楼
	28670	クワ科	<i>Humulus lupulus v. cordifolius</i>	カラハナソウ	宮城県仙台市	Aug.?.1890	牧野富太郎
	10222	ニシキギ科	<i>Microtropis japonica</i>	モクレイシ	東京都文京区小石川植物園	Autumn.1890	牧野富太郎
	86643	バラ科	<i>Rubus pseudoacer</i>	ミヤマモミジイチゴ	奈良県吉野郡大塔村弥山	Aug.?.1891	?
	13490	ヒノキ科	<i>Thuopsis dolabrata</i>	アスナロ	山口県萩市二階氏自宅	???.1892	二階久子
	13048	ヤドリギ科	<i>Taxillus yadoriki</i>	オオバヤドリギ	山口県大津郡三隅村（三隅町）宗頭	???.1892	二階重楼
	13959	マンサク科	<i>Hamamelis japonica</i>	マンサク	山口県萩市	???.1892	二階久子
	13729	ムクロジ科	<i>Koelreuteria paniculata</i>	モクゲンジ	山口県萩市	???.1892	二階久子
	12920	イネ科	<i>Setaria viridis</i>	エノコログサ	山口県萩市	???.1892	二階久子
	13902	トウダイグサ科	<i>Excoecaria cochinchinensis v. purpurascens</i>	セイシボク	山口県萩市	???.1892	二階重楼
	86228	ツツジ科	<i>Phyllodoce aleutica</i>	アオノツガザクラ	富山県中新川郡立山町立山	Aug.4.1892	?
	85723	バラ科	<i>Geum pentapetalum</i>	チングルマ（イワグルマ）	富山県中新川郡立山	Aug.3.1892	?
	24554	キンボウゲ科	<i>Clematis speciosa</i>	オオクサボタン	高知県高岡郡佐川町	Autumn.1892	牧野富太郎
	10140	ウコギ科	<i>Aralia elata</i>	タラノキ	高知県須崎市須崎	Nov.?.1892	牧野富太郎
	86408	キンボウゲ科	<i>Anemone flaccida v. gracilis</i>	ギンサカズキイチゴ	長野県上水内郡戸隠村戸隠山	Jul.?.1892	?
	86644	バラ科	<i>Rubus hakonensis</i>	ミヤマフユイチゴ	長野県上水内郡戸隠村戸隠山	Jul.?.1892	?
⑤	12994	ホルトノキ科	<i>Elaeocarpus sylvestris v. ellipticus</i>	ホルトノキ	山口県阿武郡椿郷東分村笠山	Aug.3.1892	二階重楼
	1442	イチイ科	<i>Taxus cuspidata</i>	イチイ	山口県南部	???.1894	T.Yamahara

表1 当館所蔵で、現存する初期の植物標本一覧（現時点のもの）
（掲載番号①から⑤はバーチャル収蔵庫への掲載を示す）

4 バーチャル収蔵庫について

「バーチャル収蔵庫」は、「新たな博物館展示創出事業」の一環として地方創生臨時交付金で実施した事業の1つの柱で（他に、主に歴史展示室で体験できる「デジタル松下村塾」などがある。デジタル松下村塾はデジタルサイネージやタブレット端末を活用して、松下村塾などを紹介するデジタルコンテンツである。）、資料の保全のためなどの理由で展示室になかなか出ることが出来ない厳選した貴重な資料約2,000点を5年間かけてデジタルでデータベース化していく予定である。事業そのものは2021年度に終了し、残りの4年間の撮影等は館独自の取り組みとなっている。当館のこれまでの収蔵資料データベースと異なり、360°方向から資料を観察することができる画像や閲覧者が観察したい箇所を任意に拡大して見ることのできる高精細画像だけでなく、資料と関連あるフィールドの画像や実際に資料が稼働している動画などもあわせて提示することができるようにしている。

これらは、学芸員の調査・研究の成果の発信に直結するだけでなく、効果的に資料を見せることができるようになったため、これまで博物館に関心をもたなかった人たちにも博物館資料に興味をもってもらうことで、博物館の活動全体への理解や関心を高めるものである。

植物分野については、明治時代の標本5種以外には、県内の希少種（絶滅危惧種）57種の標本資料の全体と花などの特徴部分の拡大画像とともに、実際に生育している場所での貴重な画

像を提示し、さらに一部については生育場所の環境を撮影した動画も加えることで、より植物に対する理解や関心を高める工夫をしている。



画像11 バーチャル収蔵庫バナー(当館サイトのトップページ画面より)



お知らせ 2023.10 山口県立 山口博物館 バーチャル収蔵庫オープンしました

画像12 バーチャル収蔵庫トップ画面(例)



画像13 バーチャル収蔵庫画面(例)

5 おわりに

今回掲載した植物標本は、今から130年以上も前のものであるが、それらの標本の状態そのものが良好なだけでなく、その質も極めて高いことに驚かされる。当時は、標本用の台紙を手に入れるだけでも相当大変であり、採集のための交通手段や費用、その後の大量の標本の持ち帰り、同定のための資料など、すべての面で非常に困難を極めたことは容易に想像できる。その一端は日本の植物学の父と呼ばれる植物学者「牧野富太郎」の伝記などからも伺えるが、そうした悪条件の中で、当館だけを見ても全国各地から膨大な数の標本が収められており、当時

からの現在まで長きにわたる多くの関係者の植物分類を含めた植物学に対する熱意が伝わってくる。

しかし、最近では野山に出て植物採集や標本作製に取り組む親子の姿を見ることも少なくなっており、また当館の植物分野の幅広い活動を支えていただいている植物サポーターの方々も高齢化が進み、採集や標本作製、同定、講座の補助などのさまざまな技術の継承が心配される状況となっている。当館の植物分野の教育普及講座においては、年に1度は植物標本づくりを実施するとともに、他の講座でも教材を新たに開発するなど内容を工夫して植物の魅力発信を続けているが、最近は特に受講者の年齢層が幼児や小学校低学年程度へ低年齢化していることもあって、なかなか次代への継承が進まないのが現状である。

今回、バーチャル収蔵庫において希少種だけでなく当館に関わる最古級の植物標本の画像を発信したことも、単なる情報提供というだけでなく、幅広い世代の植物への興味・関心を高めるための1つの機会と考えており、今後も機会をみて取り組んでいく予定である。

最後に、標本調査でご協力いただいた国立科学博物館の海老原淳氏に厚く御礼を申し上げます。

6 参考・引用文献

- 漁 剛志. 2022. 「ミュージックミュージアムinバーチャルやまはく」と「バーチャル収蔵庫」の開設と概要について. 山口県立山口博物館研究報告.Vol 48 . pp.73 -78. 山口県立山口博物館. 山口
- 大場秀章（編著）.2016. ナチュラリストシーボルト 日本の多様な自然を世界に伝えたパイオニア. ウッズプレス. 横浜
- 岡 国夫ほか（編）. 1972. 山口県植物誌. 山口県植物誌刊行会. 山口
- 清水洋美（著）. 2020. 牧野富太郎（日本植物学の父）. 汐文社. 東京